

柏市危機管理部長との会見・協議結果記録（概要）

1. 実施日時：令和5（2023）年2月2日 木曜日
午前 10 時 05 分～午前 12 時 05 分（2時間）
2. 実施会場：市役所本庁舎敷地内会議室
3. 出席者：
 - 柏市側 危機管理部長 ほか4名
 - 風早北部地域ふるさと協議会側 会長及び防犯防災部長
 - 陪席（オブザーバー）沼南近隣センター所長 以上計8名
4. 協議結果（骨子）

冒頭発言

ふる協側：

これまでの約6年間に市側に提示してきた要望事項への市からの回答が不十分であることへの不満〈会長作成の資料を提示〉、市長（前市長や現市長）の対応や発言にも不信感があることを冒頭で表明。そのため、今回は市上層部との会見を依頼し、直接考え方を訊ねたかったことを説明。

市側：

回答が不十分であったことは陳謝。但し事案の関係者・当事者が決して少ないことを背景に、回答には慎重さが必要であることで、なかなか期待に沿えるタイミングで回答できていないことをご理解願いたい。また、市内各団体での防災活動の温度差が大きく、レベルの高い団体の活動に合わせるより、全体の中で底上げを計ることが重要であると判断している。

市長や幹部（上層部）への直接の要望とのことだが、私どもに頂戴した要望もしっかり市長・関係幹部に報告している。市長は、様々な案件への対応で多忙な中、個々の事案を全体感をもって対処する立場にある。こうしたことにも何卒ご理解願いたい。以下「■」が柏市からの主な解答の骨子。●は当会発言の骨子。

議題(1) 当風早北部地域内の大地震発災時のトリアージを含む緊急治療医療体制の改善について〈冒頭で会長作成の資料を提示〉

- 柏市が2022年7月にセブンパークアリオ柏との間で包括連携協定※を締結。連携内容14項目中には「災害対策、防犯・防災に関する事項」が含まれている。同所が防災拠点機能の検討において重要な施設と市では捉えている
※正式な締結の相手は「イトーヨーカ堂・㈱セブン&アイ・クリエイトリック。本件に係る市の担当部署は企画部経営戦略課。
- 市医師会等様々な関係団体との間で、災害時の医療体制（救急救護施設や医療物資集積場所の確保）につき、優先度の高い課題の一つとしてその協議を

実施中である

- 関係者間の調整や協議もあるため、検討状況の詳細を含めなかなか迅速に公表できないことが少なくない
- 本件での地域住民の不安を解消できるよう、現行の課題解消に向けた対策検討を出来るだけ進めて参りたい

（市の回答後のふる協からの改めての主張）

- 災害は、明日にでも生じる可能性がある。当地は旧柏市とは異なり大病院がない。他の地域への水平展開でなく、旧沼南町のトリアージ場所、それに伴う医師看護師の集合、医療器具等準備を速急に決めて頂くことをお願いします

議題(2) 市の行政無線の部分的放送機能を有効に活用いただくことについて

- 人命にかかわる内容は出来るだけ行政無線の部分活用を行って参りたい
- 自主避難所の開設に関わる通報も人命に関わる事項であり、活用対象の範疇と捉え、今後住民が混乱しないよう配慮しつつ、無線放送機能を活用していく予定である
- 電話 de 詐欺対策では、被害は深刻となっており、高齢者宅へ電話機への録音機無償設置を進めていくことを予定（1月15日付並びに2月15日付広報かしわに掲載）している

議題(3) 市内一斉防災訓練の実施(現在の柏市主催総合防災訓練の抜本的な見直し)について

（ふる協からの改めての主張）

- 現在の市の防災計画を検証していくためには、市全体で（広域の）防災訓練の実施以外に効果的な手法はない。柏市が毎年11月に実施する現行の防災訓練のやり方での達成は極めて困難と我々は評価している
- 今年は関東大震災発生から100年の節目である。この機会をとらえ、来る9月1日の防災の日に市民が参加できる訓練の実現を目指したい。その具体的内容を検討する
- シェイクアウト訓練は関連団体への事前登録などかなり手間がかかることから、仮に実施する場合でも、市民への実施呼びかけのスタイルとなる

議題(4) 住民、特に高齢者への自助防災の啓発活動や支援の実施について

- 補助金新設については現時点で考えていない（昨年12月の定例議会でもその主旨で答弁）。災害時に高齢者を守る対策の重要性は市でも十分認識してお

り、具体的な策は今後検討したい

(この回答を受けての当会からの提案発言)

- 現状の身障者向け補助金制度（支給実績は非常に少ない）の支給対象に高齢者を加える、関連講習会は民活導入や現行のフレイル防止策として実施するなど、危機管理部以外の部局課組織と連携した取組みを是非お考えいただきたい

議題(5)マイカー及びマイテント避難の拡充を一刻も早く実現いただくことについて

- 関係部署と協議、調査を実施し、結果として市の管理地を活用したテント避難の実現は可能と考える一方、マイカー避難との混在は避難現場での事故等の発生の危険性が伴うため慎重に判断すべきであり、実施は現時点では難しい

(この回答を受けての当会からの発言)

- 私どもが求める「マイカー避難の実現」が先ずは重要で、テント避難自体は補完的措置である。避難場所での安全確保の観点では、テント避難だけでは心配な面が多い。この両者の組み合わせで、安全安心な一時的避難スペースが確保される。本施策により集団生活が難しい世帯の避難生活やペットとの同伴・同行避難も可能となる。その点では、在宅避難が難しくなった世帯住民の支えとなるはずである。例として、東広島市のマイカー避難の対応を参考に、マイカー及びマイテント避難をセットで考え、その避難を可能とする土地の確保をお願いしたい

以 上